

予 算 要 求 資 料

令和5年度9月補正予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産振興費

事業名【新】飛騨牛戦略推進強化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 飛騨牛銘柄推進室 銘柄推進係 電話番号：058-272-1111(内4138)

E-mail：c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 7,594 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	7,594	0	0	0	0	0	0	0	7,594
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

昨年、鹿児島県において開催された全国和牛能力共進会では、全ての部門において宮城大会(平成29年)の結果を上回る成績を収めたものの、和牛日本一の称号となる最優秀枝肉賞の獲得は惜しくもなかった。

次回、北海道大会(令和9年)に向けては、本年4月26日に「全国和牛能力共進会岐阜県戦略推進会議」が開催され、鹿児島大会の反省のもと、再度、日本一奪還に向けた3つの基本方針が決定された。具体的には、①肉量を増加する飼料設計の見直し及び給与指導 ②長距離輸送対策の実施 ③次代の担い手へのサポート体制の充実であり、これらの取組みを飛騨牛関係者が一丸となって推進していくこととなった。

また、次々回大会(令和14年)が岐阜で開催されることが決定しており、今後の出品対策は北海道大会を通過点とし、最終目標を岐阜大会とした取組みが必要である。

(2) 事業内容

①畜産研究所が設計した肉量増加につながる子牛期育成飼料の有効性を検証するため、畜産研究所をはじめ、その他関係機関に実証試験の業務委託を行い、多くのデータを収集することにより試験飼料の有効性の実証と正確性を向上する。

また、その結果を基にした子牛育成マニュアルを作成し、北海道大会に出品する候補牛の育成に活用する。

取組み②③については、本年度中に実施方法を検討し、令和6年度から実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

先進的な取り組みを行うことから、県が実施する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
飼料費	1,440	試験飼料
消耗品費	200	事務用品等
通信運搬費	50	郵便代、検体送付代
役務費	528	血液検査
委託料	5,376	実証実験
合計	7,594	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

全国和牛能力共進会北海道大会（令和9年）に向け、全国和牛能力共進会岐阜県戦略推進会議にて承認された取り組みの基本方針。

(2) 国・他県の状況

なし

(3) 後年度の財政負担

肉量の改善に向けた取り組みは、次々回の岐阜大会（令和14年）も見据えて継続実施。

(4) 事業主体及びその妥当性

畜産研究所がもつノウハウを活用した子牛期の育成飼料であり、引き続き県自らが実施する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

全国和牛能力共進会北海道大会の出品候補牛の育成時期となる令和7年末までに、肉量を増加させる飼料の開発及び子牛育成マニュアルの改訂を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R4)	R5年度 目標	R6年度 目標	周期目標 (R7)	達成率
①試験飼料の実証 頭数	0	100	100	100	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	
令和 3 年度	<p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>全国和牛能力共進会北海道大会 (令和9年) での最優秀枝肉賞獲得に向け、全国和牛能力共進会岐阜県戦略推進会議の基本方針に基づき取り組む。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会では、本県が出品した枝肉は、最優秀枝肉賞を受賞した枝肉と比較し、肉量 (歩留) が劣っており、肉量の改善 (増加) が求められている。また、ゲノム育種価をフル活用し、種牛 (雄・雌) の改良速度をあげていく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 次回北海道大会での日本一奪還に向けて、肉量の改善 (増加) には継続して取り組むとともに、飛騨牛の特徴である肉質、脂質の維持・向上やゲノム育種価を活用した種牛づくりに取り組む。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【○○課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	